

高知県遺族会 遺族大会に出席して

(戦死した祖父のこと)

高知市 中岡 一也

先日、初めて高知県遺族会遺族大会
に出席させていただきました。

祖父がフィリピンで戦死しています
ので、慰霊団の報告も興味深く拝聴い
たしました。

そして多くの方々がこの会に関わり、
戦没者に思いを馳せられているのを拝
見し、色々と思うことがありました。

祖父が出征した時、母は0歳児でし
たので、当然祖父との思い出はありま
せん。ただ、祖父は母に「もし自分が
戦死したら」という遺書を残し、また
戦場からも沢山の手紙を家族の元に送
っていました。

その手紙からは、祖父がどんなに優
しい人であったか、また家族をどれだ
け大事にしていたか伺い知ることがで
きます。

姉と私は小さい時から折に触れ、祖
父と母との絆である手紙を見せてもら
っていました。そんな時、母はいつも
「一度でいいからお父ちゃんに会いた
い」と言います。手紙だけでもわかる
素晴らしい祖父。

高知の家族の元に帰ることができず、
さぞかし無念だったでしょう。

そして残された家族の悲しみはいか
ばかりだったか。やはりこの事は忘れ
てはいけませんし、伝えていかなくて
はなりません。

きつと総会にお集まりの皆さんも同
じように戦没者への思いを後々に伝え
ていきたいとお考えではないでしょう

か。

実は私は祖父にそっくりで、亡くな
った祖母からも「生まれ変わり」と言
われ、また遺影を見た幼い従兄弟から
「あの一也君に似ちゅうがは誰？」と
言われておりました。

確かにその時代に祖父という人がい
た証が自分なのかなと勝手に思ってい
ます。

本当に微力ですが何か自分にも出来
ることがあるのではないかと思っただ
次第です。

※平成29年10月高知県遺族会報掲載